

計画	第4回(8/7)	第5回(12/8)
協働推進	<p>●700人の方を対象に実施された「<b>プレ栽培</b>」の<b>具体的な話</b>と手答えや今後に向けた課題、<b>今後の展開について</b>聞きたい。(栗原副幹事長)</p> <p>●秋開催の時に、花をいつ植えるのかが決まっていなくて材料調達や捕植の材料をどのように確保していくのかが非常に難しいのではないかと。秋の時期はなかなか材料の調達というのは厳しく、この時期に、市民協働でどういった苗を市民の方に育ててもらおうのかがいいのかというのもそろそろ考えておいた方がよい。(栗原副幹事長)</p> <p>●ボランティアの方がどのような形で関わってもらおうのか、少し小出しでもいいので何か心構えのようなものをつくり、みんなでやるんだよという意識を高めていくようなやり方をしないといけない。<b>いろいろなボランティアの関わり方のメニュー</b>というのがあって、そういう考え方で整備されていけばいいと思うが、なるべく早く、<b>つくっていった方がよい</b>。(栗原副幹事長)</p> <p>●「<b>市制100周年事業</b>」では、ボランティアを募るのか募らないのか、「<b>川崎緑化フェア</b>」と<b>どちらのボランティアなのか</b>、川崎市内にいろいろな商店街と、いろいろやった時に、どちらの協力のものを軸にしたいのかを一度<b>整理をしていただきたい</b>。(渡辺幹事)</p> <p>●一般の方が、植物を仕入れられる一つの場所という中に、商店街やお花屋さんになるのかということと、連携ルールか、可能な範囲での協力設定をしたら協力してもらえるのではないかと。(反町幹事)</p> <p>●<b>いろいろなエントリーの仕方</b>があると思うが、100周年の記念事業の話が出てきたりすると<b>一般の個人や家庭、お店などが一体どこで何をすればいいのか</b>というのが<b>ちょっとわからない</b>と思う。(萩原幹事)</p> <p>●市民全参加型の緑化フェアということで、例えば、この一軒一軒のお家がすべて参加していますということを表明できるなど、皆さんが参加しているのが分かるようなものが一つあるとよいと思う。商店街の場合は、商店街があるところに、何か同じものが置いてあるなど、<b>自分が参加していることを表明する方法についても</b>考えて頂きたい。(深町幹事)</p> <p>●各緑道や各団体のところで、何か統一されたプレートのようなものができると、エントリーの仕方が家庭でもいいのかどうかというハードルを下げてくださいと、すごく広がると思う。例えば、緑で店内を飾る、レジの周辺を飾るなど、そういうものが刺さっていて、川崎市のまち中でそれをやっているよというのがすごくいいのではないかと。(萩原幹事)</p>	<p><b>【協働推進】</b></p> <p>・<b>令和5年度</b>は、市立小学校(3校)、市立中学校(6校)、特別支援学校(1校)、市立保育園(21園)がプレ栽培に参加し、<b>12/4現在で参加者累計が2,530人、5,400以上の花苗の植え付け</b>を実施。</p> <p>・<b>令和6年度</b>は、市立小学校(114校)、市立中学校(52校)、特別支援学校(4校)の<b>市立学校全校(合計170校)</b>での花苗育成を実施予定。プレ栽培を踏まえ、<b>民間保育所等での実施方法についても検討</b>。</p> <p>・市制100周年記念事業に関するボランティア募集はなく、緑化フェアでの植物育成・管理や会場運営等に関わっていただくボランティアを募集する。</p> <p>・<b>植物育成・管理ボランティア</b>については、令和6年1月9日まで<b>募集中</b>。令和6年2月に説明会を、その後、初めて参加する人向けの研修会も実施予定。<b>フェア開催中のコア会場での植物管理</b>とともに、<b>フェア開催前からコア会場やまちなかの市民協働花壇などでの植え付けのサポート、市立小中学校などでの協働の花苗育成のサポート</b>などを実施していただく。</p> <p>・飲食店が100周年記念メニューを開発し、提供する場合、実行委員会企画団体主催事業やパートナー主催事業に該当することになる。100周年記念事業の登録は、ホームページから可能となっており、様々な機会をとらえて登録方法を案内していく。<b>緑化フェアの来場者には、まちなかでの飲食も楽しんでいただきたく、期間限定メニューなどがあれば、パンフレットに掲載するなど積極的に周知、広報</b>していく。</p> <p>・参加表明の方法については、<b>花壇等で使えるプレートを作成</b>し、地域の花壇等で<b>活動している団体に配布を開始</b>したところ。店先やレジ前などをみどりで飾っていただくことも、まち全体での来場者へのおもてなしにつながるものであり、ぜひ積極的に発信していきたい。今後、<b>個人や企業、商店街など、各参加者や状況に応じて取り入れやすい方法の提案、実施していただいた取組の発信の仕組みを検討</b>していく。</p>

計画	第4回(8/7)	第5回(12/8)
会場 計画	<p>●具体的な整備内容は、3会場はそれぞれ整備の段階が違い、例えば、その公園が持っている、すでにあるハードを活かして何かをすとか、何か物を置いていくような計画になっているので、将来につなげる上でも、こういうところが緑化フェアを通じて変えていきたいとか、それが生きていくような、線と面だけじゃなくて、もう少し<u>公園のハード自体から会場計画が見える化</u>できるとよい。 (福岡幹事長)</p> <p>●<u>連携会場は</u>、開催前から諸課題があり、<u>緑化フェアで公共空間を活用することで少し変化</u>を見ることができる。例えば、担当部署だけではなくて他の部署を巻き込んでその緑化フェアに参加することで効果を感じることができる、検証することができるということは使えるのではないか。(福岡幹事長)</p> <p>●<u>各会場が持っている課題、周辺のまちが持っている課題</u>がたくさんあると思うので、それに絡めて提示してあげて、またそれを緑化フェアの期間だけ綺麗に演出して暫定的に利用するのではなく、それを<u>次につなげていく仕組み</u>を作ってあげると、参加しやすい。そういう時にパワーを貸してくれるような組織として、まちづくり系の団体や区役所など、動けるところを繋げていくということが大事。(福岡幹事長)</p> <p>●「まちなかのみどりスポット」として名称を変える件は非常にいいと思った。市民にとっても分かりやすさは大事だし、参画していただくためにもイメージのしやすさは重要だと思う。(大西幹事)</p> <p>●会場ヘッドギアバッグや容器を持っていこうというアクションや、自分の箸を持ち歩くなどアイデアは色々あると思うが、緑化フェアに参加する人たちがみんなそれぞれ何か一つ同じものを持って会場に集まる、なんていう絵面もユニークだ。市民がこれから生きていくなかでの延長線上にあるような、生活につながるような、<u>ウェルビーイングな何かアクションが起こせる、アクションに繋がってくる</u>と非常に面白いと思ったので、是非そのキーワードが何かということも考えていただけると良い。(大西幹事)</p> <p>●基本方針では、<u>先端技術で新たな都市緑化</u>を作っていきたいことを最初の幹事会でもあったと思う。今回の資料の中で、IT技術や先端技術を使うことは<u>どの部分なのか</u>が分からなかったなので、そのあたりを教えていただきたい。 (大西幹事)</p>	<p><b>【会場計画】</b></p> <p>・<u>将来につながる取組</u>（フェア後にも残る取組）<u>を意識しながら、会場のハード面について検討中</u>。 (富士見公園) <u>富士通スタジアム外壁の壁面緑化</u>、レインガーデン、農と自然を体感する広場 (等々力緑地) <u>藤棚周辺</u>、釣池、ふるさとの森 (生田緑地) メタセコイアの森、ばら苑</p> <p>・<u>フェアをはじめ100周年記念事業において、各局区と連携し、公共空間を活用した取組を全市で展開</u>。これらはフェア後の継続に向けて検証していく。</p> <p>・<u>各会場やエリアの特徴や現状を踏まえて、フェア後のレガシーにつながる取組を検討中</u>。 (富士見公園) <u>芝生広場や土の広場の新たな活用の発信</u>、農の広場・レガシーガーデンにおける市民参加の場の創出、市役所通り・稲毛公園における公共空間活用の取組 (等々力緑地) <u>再編整備に向けた機運醸成</u>、小杉エリアプラットフォームの活性化、ファミリー層・商店街など新たなプレーヤーの掘り起こし (生田緑地) <u>ナラ枯れ</u>、ボランティアの固定化など、里山管理が<u>直面する課題の発信</u>、アートや体験ワークショップなど市民が活動に関わってもらうフックとなる展示やコンテンツの展開、<u>向ヶ丘遊園駅前の生田緑地に来たワクワク感の演出</u></p> <p>・<u>行動の変容を促すきっかけとなる仕掛けについて、引き続きソフト・ハードの両面から検討</u>していく。</p> <p>・会場において、企業などと連携し、<u>最先端の壁面緑化技術や環境技術を展示</u>していく。そのほか、<u>市民協働の取組の支援に向けたデジタル技術の活用を検討中</u>。</p>

計画	第 4 回( 8 / 7)	第 5 回 ( 12 / 8)
出展 展示	<p>●基本のコンセプトを見返してみた時に、緑のムーブメントを起こしたいという記述がある。具体的には、各会場での取り組みとなっていくと思うが、割といろいろな展示があるが、参画する市民の方にとって受け身でそのイベントに参加するという形が、現時点ではちょっと多いかと感じている。<b>能動的なもの、参加型の企画などバランスよく考えて</b>いただきたい。(大西幹事)</p>	<p><b>【出展展示】</b>  <b>・個人でも積極的に参加や取組の発信ができるコンテンツを展開していく。</b>            (富士見公園) 庭園出展コンテスト (ベランダ、ワークスペース)            (等々力緑地) ガーデン制作、<b>市民協働花壇</b>            (生田緑地) 竹材の活用、ベンチコンテスト</p>
植物 調達 ・ 管理	<p>●<b>「植物調達管理」では、具体的な品目別の数値</b>は、今月の総会を終えて出ることでのよいのか。具体的な数量等が示されないと生産者への説明や一年前から種の関係もあり、普段生産者の販売計画に影響がでかねないため、なるべく<b>早めに報告を</b>いただきたい。(矢澤幹事)</p>	<p><b>【植物調達】</b>  <b>・10月に植物調達協議会</b>を設立し、<b>設計と連携を図りながら来年度の調達業務に向けた計画策定に着手したところ</b>。引き続き、協議会と連携を図りながら、具体的な数量等を決定していく。</p>
観客 誘致 ・ 広報 宣伝	<p><b>【広報】</b>            ●デジタル活用で言うと、市民が<b>自分たちの取り組んでいる内容を登録できるように</b>するとか、できるだけ早く社会的な交流も含めて、デジタル上で、情報を簡単に登録する。交流も同じで、それが見える化をすると思う。(福岡幹事長)            ●人の動きや数字などにおいてもトピックスが生まれ、ムーブメントが起きたということを各メディアは期待するところもある。例えば、「ボランティア参加が過去最大の人数になった」「参画団体が何千企業である」など、何か他と違う状況、状態が起こる、つまり<b>ムーブメントを起こす</b>、ということも重要な観点かと思う。<b>数字的なものなどに一つ目標を置く</b>、など考えていただけるとよい。(大西幹事)            ●非常にイベントが乱立している現状で、それぞれが大変面白いイベントが川崎の街の中にもたくさん存在している。<b>100周年と緑化フェアは繋がりがあっても、また違うイベントであり、やる意義があるのだということ</b>をわかりやすく伝えていく<b>必要がメディアとしてもある</b>と思った。次のフェーズになると思うが、<b>フェアのPR戦略を作っていく</b>中で必要だと思う。(大西幹事)</p> <p><b>【協賛】</b>            ●「市制100周年事業」と「緑化フェア」の計画書が平行で出されており、<b>協賛の仕組み参画の仕方が分かりにくく</b>、どちらに協賛・参画するのかが基本的に問われる。(渡辺幹事)            ●同じ場所で開催されるため、各事業の独自の事業・式典なのか、連携された事業・式典なのかを市民、協賛社、メディアが分かるようにしていただきたい。(渡辺幹事)            ●川崎市・緑化フェア・市制100周年の3つのロゴ利用についても、前述の協賛と参画とあわせて整理していただきたい。(渡辺幹事)</p>	<p><b>【広報】</b>            ・市民の活動状況等を広く知ってもらうため、積極的に広報PRできる仕組みとして、<b>SNSでの日々の発信に加え、今後、HP等も活用</b>していく。            ・広報PRの達成目標として、<b>具体的な対象における定量的な設定を意識</b>して行っていく。            例：市内小中学校の児童生徒のうち…            ・100周年事業と一体的に、<b>「通年」と「広報集中期間」とメリハリをつけた効果的な広報宣伝PRの実施</b>に加え、フェアのPR戦略の一環として、<b>広報計画カレンダーを作成</b>していく。</p> <p><b>【協賛】</b>            ・<b>100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会として、9月から協賛募集を開始</b>したところ。実行委員会参画企業を中心に、協賛案内について、丁寧な説明を実施中。</p>

計画	第4回(8/7)	第5回(12/8)
開催 行事	<p>●<u>ナイトタイムエコミーのご計画</u>をいただいたようで、私は個人的に必ず必要だと思っていたので是非、企画を詰めて頂きたい。(反町幹事)</p> <p>●主要な行事に対しては、このタイミングからきちんとコンタクトをとって、緑化フェアとして枠を抑えることや連携できるだけきちんと入り込んでいく関係性が作れた方がいい。(反町幹事)</p> <p>●<u>主催・連携行事は、川崎にゆかりある、地元の会社に仕事が落ちて回るような仕組み</u>は必ず必要だと思う。(反町幹事)</p>	<p>・<u>夜の公園を活用した取組</u>として、ナイトマルシェの実施を検討しており、燃料電池自動車からの給電など、<u>環境に配慮した実施方法</u>としていきたい。<u>昼の会場とはまた違った一面を見ていただくことができるよう、企画</u>を詰めていく。</p> <p>・公式行事の考え方を整理し、コンセプトに沿った内容となるよう必要な関係者と連携を図っていく。</p> <p>・<u>アトラクションや記念品の作成など、地域と連携した取組</u>を検討していく。</p>
飲食・ 物販 (営業 参画)	<p>●沢山の飲食物販により沢山のゴミが出ることに、問題があると思う。例えば、フランスのマルシェなどでは多くのお店が出店され、そこへは容器を持っていくのが当たり前になっている。日本では、衛生上できるか分からないが、<u>緑化フェアで作られる容器などを持ち、いろいろなところを回れる</u>、若しくは自分で持ち込むなどで、<u>少しでもごみを減らせる</u>、自分で何か物を買うときに、何でもプラスチック容器に入れるなど、使い捨ては違うことになるので考えて欲しい。(深町幹事)</p> <p>●「物販」では、ちょうど<u>シーズンの梨(多摩川の梨)</u>を、持続可能な農業や都市農業、川崎農業を実現するサンプルとして取り組んでいるものがあり、<u>活用を検討</u>頂きたい。(矢澤幹事)</p>	<p>・飲食については、<u>SDGsの要素を取り込んだ衛生面や環境面に配慮したサービスを提供</u>を基本的な考え方としており、使い捨てプラスチック等の使用を可能な限り抑制するなど、<u>容器のリユース・リサイクル等の環境に配慮したもの</u>としていく。<u>プラスチックの素材についても、植物を配合したものなどを検討中</u>。</p> <p>・<u>川崎産の農産物等を使用したメニューや川崎ならではの食文化の発信につながるご当地グルメ等を来場者にアピール</u>したい。フェア開催期間の旬の食材などの情報をいただき、ぜひ活用していく。</p>
会場 運営・ 交通 輸送	<p>●全体で160万人という計画で、会場ごとの想定来場者数がはっきりしないと円滑な交通輸送のための準備はできないと思うので、会場ごとの人数を想定をする必要がある。(米川幹事)</p> <p>●<u>渋滞関係も考慮して計画を立てなければいけないので、まず会場ごとの想定人数、そして具体的な増強、バスの増便などについても、市民への影響や交通渋滞の影響などについて考えていただきたい</u>。(米川幹事)</p>	<p><b>【交通輸送】</b></p> <p>・資料に会場ごとの想定来場者数を記載。<u>今後、想定来場者数やイベント時の交通経路のアンケート結果などをもとに、バスの増便等について関係者との調整を実施</u>。合わせて交通への影響についても交通管理者等と協議調整していく。</p>